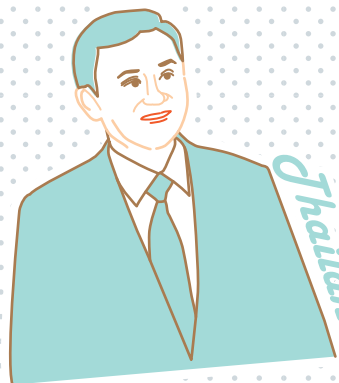




RICE BALL ライスボールセミナー SEMINAR

2019. JUNE

日時

毎週火曜日 12:20-12:50

会場

創思館 1F カンファレンスルーム (S0101)



参加費無料・おにぎり付

多数ご参加いただいた場合、おにぎりの品切れ、および入場制限が発生する場合がございます。あらかじめご了承ください。

“大学ではどんな研究が行われているのだろうか？”と思ったことはありませんか？ライスボールセミナーは、お昼の休み時間におにぎりを食べながら、若手研究者による研究発表を聞いて、自由にディスカッションを楽しむセミナーです。学生でも教職員でも、どなたでも気軽に参加していただけます。お昼のちょっとした空き時間に、ぜひのぞいてみてください。お茶やおにぎりをご用意してお待ちしています！

vol.4

6/4 火

講師

なぜ、〈悪い奴〉を支援するのか？ ：犯罪からの社会復帰を問いなおす

衣笠総合研究機構 専門研究員 掛川 直之

vol.5

6/11 火

講師

現代ヨルダン王家の宗教戦略

衣笠総合研究機構 プロジェクト研究員 池端 落子

vol.6

6/18 火

講師

タックシン政権以降のタイ政治 —— 強権政治の登場と民主化からの逸脱

衣笠総合研究機構 専門研究員 外山 文子

vol.7

6/25 火

講師

結婚式のデモクラシー

衣笠総合研究機構 専門研究員 横田 祐美子

掛川 直之 (衣笠総合研究機構 専門研究員) なぜ、〈悪い奴〉を支援するのか?: 犯罪からの社会復帰を問いなおす



専門分野 司法福祉学、地域福祉援助、都市共生社会論

研究者の道に進んだきっかけ わたしは、法学部を卒業後、ロースクールに進学しました。ですが、修了後、思うところがあって司法試験を受験することなく、専門書の編集者の職に就きました。知的財産の創作に編み手としてかかわるなかで、多くの刺激的な研究に触発され、自らも研究者になることを志すようになり、働きながら大学院に通いなおしました。そして、D3のときに日本学術振興会の特別研究員に採用されたことをきっかけに、編集者を辞して、研究者へと転身することとなりました。

研究内容紹介 わたしの主な研究テーマは、罪に問われた人々への社会復帰支援です。本報告では、なぜ、刑務所のなかにいる、あるいは刑務所から出てきた人々に福祉的な支援が必要なのか、という背景や実態について、現在、わたしがおこなっている調査の成果等も交えながら、ご紹介していきたいと考えています。

池端 路子 (衣笠総合研究機構 プロジェクト研究員)

現代ヨルダン王家の宗教戦略



専門分野 中東地域研究、イスラーム研究

研究者の道に進んだきっかけ 高校時代、世界史の授業で中東の歴史を学んだ際に、その新鮮さに惹かれました。大学で学ぶうちに、現代中東における戦争や紛争の問題に関心を持ち、大学院進学を決めました。多くの先生方、先輩方のご指導や励ましのお陰で、研究者になりたいという志が折れないまま、今に至ります。

研究内容紹介 ヨルダンをフィールドワークの地としながら、一国家あるいは王族が発信する平和的メッセージが、どのような戦略のもと行われ、どのように波及し、イスラーム世界全体でどのような合意形成が図られているのかについて、分析してきました。イスラーム世界における国家や国際システムの宗教的な側面にスポットライトを当て、研究を進めています。

外山 文子 (衣笠総合研究機構 専門研究員) タックシン政権以降のタイ政治——強権政治の登場と民主化からの逸脱



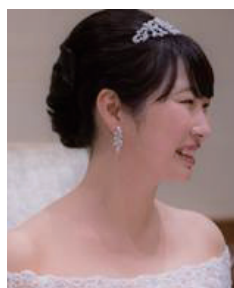
専門分野 タイ政治、比較政治学

研究者の道に進んだきっかけ アジアの発展に貢献できる仕事がしたいと思い、修士課程でタイ政治について学び始めました。当初は国際機関などへの就職に関心がありましたが、素晴らしい恩師たちと出会ったことにより、自分も研究者になりたいと思うようになりました。

研究内容紹介 タイの民主化について研究しています。現在は、憲法改正、司法、そして選挙管理委員会や汚職取締委員会などの独立機関と民主化との関係について研究を行っています。今後は、政軍関係や立憲君主制についても研究に着手する予定です。今年の年末頃には、タイ民主化に関する学術書(単著)を出版する予定です。

横田 祐美子 (衣笠総合研究機構 専門研究員)

結婚式のデモクラシー



専門分野 哲学(主にフランス現代思想)

研究者の道に進んだきっかけ フランス文学の領域で研究がなされてきたジョルジュ・バタイユの思想を、哲学として描き出すために哲学研究者の道を選びました。

研究内容紹介 哲学は基本的に「なぜ」を問う思考ですが、どれだけ「なぜ」を重ねても根拠づけられないことがあります。私が近年、それに大きくぶち当たったのは結婚式に関することでした。「なぜ上座が花婿側で、下座が花嫁側なのか」など、その社会的な背景を知ることではできても、その正当性を根拠づけられない問題があります。それが分かったとき、「なぜ」の問いは「どのように」の問いへと開かれていきます。今回は、私が実践した「結婚式のデモクラシー」の内容を紹介しながら、それを支える理論を哲学者たちの言葉を交えてお話ししたいと思います。



【会 場】 立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1 階 カンファレンスルーム (SO101)

【日 時】 毎週火曜日 12:20-12:50

【共 催】 衣笠総合研究機構、立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO)

【お問合せ】 衣笠リサーチオフィス TEL: 075-465-8224 / FAX: 075-465-8342

